

◇鈴木正洋君

○議長（澁谷俊二君） 次に、3番、鈴木正洋君の一般質問を許可いたします。鈴木正洋君、登壇願います。

（3番 鈴木正洋君 登壇）

○3番（鈴木正洋君） 通告に基づき一般質問をいたします。中年の議員ですが、よろしく願いをいたします。

松田町長は、美術に関して大変に造詣の深い方だと伺っております。私はといいますと、教科書の隅っこに落書きをしてきたようなタイプの間人として、美術に関する深い知識は持ち合わせておりませんが、ただ1つ、思いますのは、美術作品は人に見られてこそ価値がある、美術作品は話題に上ってこそ何ぼだと考えております。今回はそういった観点から一般質問をさせていただきます。

提案の内容は、非常にシンプルです。サン・アールの利用者を増やすため、画家の大小島真木さんからプールの天井に大きな絵画を描いてもらってはいかがでしょうか。サン・アールにあるプールの天井は、かまぼこのようなアーチ形の形状をしております。平成28年4月に耐震工事が終了し、それまでコンクリートのはりがむき出しだった殺風景な状態から、現在の明るく真っ白な色をしたきれいな天井へと変わりました。

私は2年前、そのできたばかりの天井を見て、これはまるで映画のスクリーンのような、ここにプロジェクションマッピングで映像を投影したら、きっと世界のどこにもない話題のプールになるだろうと思いました。

昨年の流行語大賞には、「インスタ映え」という言葉が選ばれました。最近のインスタグラム、SNSを楽しむインスタ女子の間では、ナイトプールの写真を投稿することがはやっていると聞きます。ナイトプールとは、都会のホテルが夏の夜に行う特別な営業サービスのことで、プロジェクションマッピングの技術を用いてプールの水面に映像を映し出し、幻想的な空間を演出するものです。

楽しかったそのプールの様子をインスタ女子は写真に撮ってSNSに投稿します。それが現代の若者のコミュニケーションスタイルであり、大衆はネタになるもの、普通ではないものを探し求めていると私は思います。常識を超える普通とはかけ離れたおもしろいものは、人々の話題となり、口コミに乗り、SNSで拡散し、最終的にはマスコミも大きく取り上げ、人々から広く知られるものになると思います。

現在進行中の事業ですが、みずほの里ロードに海外からのサイクリストを呼ぼうという計画が

進んでいると聞きます。大仙市や仙北市と連携して誘客に力を入れるのは大変にいいことだと思いますが、そのサイクリストの皆さんに、美郷町をただ素通りされただけでは、町民にとって得るものではありません。少しでも多くの観光収入が得られるように、サン・アールの利用者を増やす仕掛けづくりを行っていくべきではないかと思います。そこで、サン・アールのプールの天井に大きな絵を描いて、世界的な話題に上ることを考えてみてはどうかという提案をさせていただきます。

一昨年、画家の大小島真木さんは、美郷中学校で大きな壁画を描きました。水と命をテーマにした作品を見て、私も深い感動を覚えました。ここで想像していただきたいのですが、サン・アールのプールの天井に大小島さんが描いた、あの大きな生命力あふれる壁画があったとしたらどうでしょうか。その生命力あふれる絵を眺めながら、水面にあおむけになって浮かび、ゆっくりと背泳ぎで静かに泳ぐ。世界のどこにもない最高のリラクゼーション空間になると私は思います。

大小島さんの作品は、昨年は仙南小学校にもお目見えしました。新年度は、千畑小学校でも制作を行う予定だと聞いております。このパターンでいきますと、その次は六郷小学校となるのでしょうか。優れた芸術作品が児童生徒の感性を刺激し愛校心を育むことは、私も十分に理解しておりますが、しかし幾らすばらしい絵画であっても、それが学校の中にある限り、一般の人の目にはなかなか触れにくいものであると思います。名画であればこそ、誰もが鑑賞できるパブリックな空間に展示したほうが、私はよいと思います。

そして、せっかく著名な画家の方から作品を描いてもらえるのであれば、その展示場所をどこにして、どのように使っていくのかという、いわば作品の見せ方、役立て方についても丁寧でしつこい議論があってしかるべきではないでしょうか。作品は人に見られてこそ価値がある。絵は人目について話題に上ってこそ何ぼであるとする私としては、サン・アールや湧太郎などの商業空間のほうに作品が展示されていたほうがよいと考えております。

湿気の多いプールですので、その場所に絵画を展示することはさまざまな面で難しい問題もあるかと思いますが、しかし、だからこそそこに挑戦する価値があるように私は思います。作品をアクリル板で密閉するなど、いろいろな工夫をすれば解決策は出てくるものだと思います。誰もやっていないことだからこそ、それを乗り越えて実現した際には、大きな話題になるのではないのでしょうか。

すばらしい大小島さんの作品をベースに、そこにプロジェクションマッピングを組み合わせれば、世界のどこにもない作品が生まれそうです。詳しい説明は省きますけれども、美郷町の児童

生徒、町民、サン・アールの利用者などが描いたイラストをプロジェクションマッピングで重ねることによって、大小島さんの絵画とコラボさせることも可能かと思えます。永遠に変化し続ける、永遠に未完成の作品、話題の放出をし続ける絵画作品になると思えます。

サン・アールの利用者を増やすため、画家の大小島真木さんからプールの天井に大きな絵を描いてもらうという、このアイデアはいかがでしょうか。このことに関しまして、松田町長の見解をお伺いします。

○議長（澁谷俊二君） 答弁を求めます。町長、登壇願います。

（町長 松田知己君 登壇）

○町長（松田知己君） ただいまのサン・アールのプールの天井に大小島さんから壁画を描いてもらったらどうかというご質問について、お答えいたします。

平成29年度の仙南小学校の壁画は、縦1.45メートル、横5.20メートルの制作規模で、制作・仕上げに27日間を要しております。サン・アールのプール天井面積が648平米ですので、仙南小学校の壁画面積の86倍となります。その実績から、これまでの実績から、制作期間や関連経費を試算しますと、制作期間が2,300日余り、仮に毎日作業を行ったとしても、6年以上の期間が必要で、経費は7,700万円ほどの金額となり、膨大な期間と経費を要することとなります。

また、絵画を直接壁ではなくてパネルに描いてもらって天井に張りつけることも考えられますが、経費がさらに必要なほか、パネルの防水性や耐震性、安全性なども考えますと、実質的には不可能だろうと思えます。

また、アクリル絵の具での制作には、乾燥状態での作業が基本となり、湿気の多いプール天井を乾燥させるため、施設の長期休業が必要となります。平成28年度のサン・アールのプール利用の実績は2万2,000人を超えており、このうちスポーツ少年団や中学校の授業等の利用が5割ほどの状況となっていることから、こうしたことを踏まえますと、長期休業は大きな影響があるほか、6年以上の休業に伴う施設の収入減も4,100万円ほどとなり、施設運営にも影響を与えることとなります。

さらに、過密な日程で仕事をしている画家の大小島さんにそれほどの日程確保をしていただくのは不可能に近いですし、高さが約4メートルある、議員もおっしゃいましたが、アーチ状のプール天井での制作作業は、体力的にも精神的にも相当な負担を強いることが予想されます。

したがって、サン・アールのプール天井への制作は、アイデアとしては受けとめますとともに、リラクゼーションの効果も確実にあるものと想像できますが、現実のものには残念ながら存じませんので、どうかご理解をお願いいたします。

なお、大小島さんの作品については、ご承知のとおり、パネル式となって今現在制作してもらっておりますので、一連の作品が完成した後に、一時学校から作品を学友館等に運び、町民各位に広く鑑賞していただく機会をつくってまいりたいと現在のところ考えているところです。

観光客を増加させることは、大変に大切な課題でありますので、ご質問の核心に込めた議員の思いや認識を受けとめながら、各般にわたって今後の展開を引き続き考えてまいりたいと存じます。以上です。

○議長（澁谷俊二君） 再質問ありますか。（「はい」の声あり）3番、鈴木正洋君の再質問を許可いたします。

○3番（鈴木正洋君） 現実的にプールの天井に大小島さんが作品を描くのは大変に難しい状況であるということが、よくわかりました。ですが、サン・アールの集客増につながるような何かしら話題づくりというもの、プールの天井を使った、そういった話題づくりをしていったほうがいいと私は考えますので、例えば冒頭で申し上げましたようなプロジェクションマッピングであるとか、そのような方法で何か独自のプールをつくっていくということに取り組まれていくのはどうかと私は思います。

最後に、答弁は求めませんが、一言つけ加えさせていただきたいと思っておりますのは、作品の魅力を最大限に生かして利用していくということが大事なことかと思っております。大小島さんの作品だけでなく、町では永田 萌さんの作品もよく活用されていますけれども、最初は婚姻届、婚姻届というのは交流人口の拡大につながるということで、大変によいアイデアだったと思っております。ただ、その後出てきました、あの卒業証書、あとは虫歯のない子の表彰状に関しましては、私は全面的な反対をするものではありませんけれども、正直な感想としましては、最初の婚姻届と比べて、若干インパクトは弱まったなと感じました。

ですので、今後、永田さんの作品を活用していくとすれば、私であれば、例えば町が新しく購入するバスのボディーに萌さんのあの妖精の世界をペイントしてもらおうとか、そういった使い方、常に話題を生んでいくような使い方というのを心がけていったらどうかというふうに考えております。

冒頭で申し上げましたように、絵は人目について何ぼというものであるかと思っております。ちょっと先ほど、私、議場に入って、後ろにあるこの絵に目がとまりましたけれども、この絵なども、この議場に飾られている限り、わずか二十数名の方が目にするぐらいで終わってしまうと。ただ、これがもし湧太郎の壁に展示されていたら、それを見に来る方もいるのではないかと。それを見て拡散する、SNSで拡散する人もいるのではないかとと思っておりますので、その絵の有

効活用ということをこれからも慎重に議論を重ねた上で行っていただきたいなというふう  
に思います。以上です。

○議長（澁谷俊二君） 答弁はよろしいですね。（「はい」の声あり）

これで、3番、鈴木正洋君の一般質問を終わります。